

台風19号被害調査（速報）

岩手大学地域防災研究センター

2019年10月18日

調査日、メンバー

- 調査実施日：2019年10月17日

- 調査メンバー：

地域防災研究センター	教授	福留邦洋
地域防災研究センター	特任助教	熊谷 誠
地域防災研究センター	(理工学部)	助教
		松林由里子

①山田町田の浜地区浸水被害

山田町田の浜地区では浸水被害のほか、斜面に広がる住宅地の西縁（防災緑地）に位置する盛土も被害を受けていた。

ちなみに、東日本大震災では、標高の低い海岸側の地区（写真手前側）が津波被害をうけたものの、昭和三陸津波後の高台移転地の多くは被害をまぬがれている。



盛土の一部が崩壊し、水の流れた跡



盛土の上部から住宅地を撮影。崩壊した盛土周辺で床上浸水した家屋が見られる。



床上浸水

盛土崩壊箇所

②山田町船越「鯨と海の科学館」西側 三陸鉄道の軌道（線路）被害

三陸鉄道（旧JR山田線区間）の岩手船越駅～織笠駅間、「鯨と海の科学館」西側の軌道（線路）において、盛土部分の道床流失が見られた。また、線路に併行する道路をはさんで東側にあるボックスにおいては地下を流下する水の噴出痕がみられた。



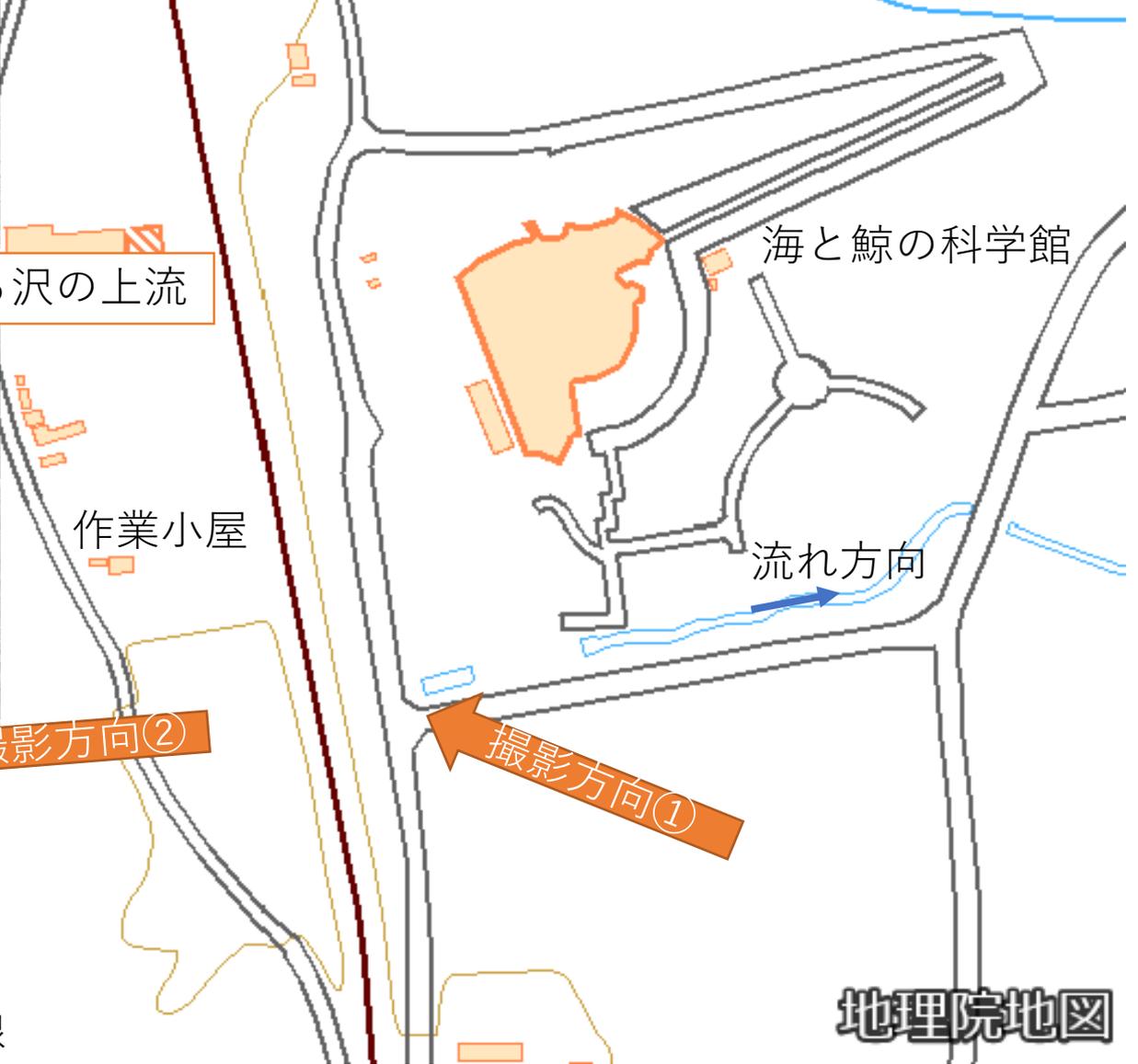
① 軌道（線路）の盛土流出



② 国道45号線，盛土の下を通る沢の上流



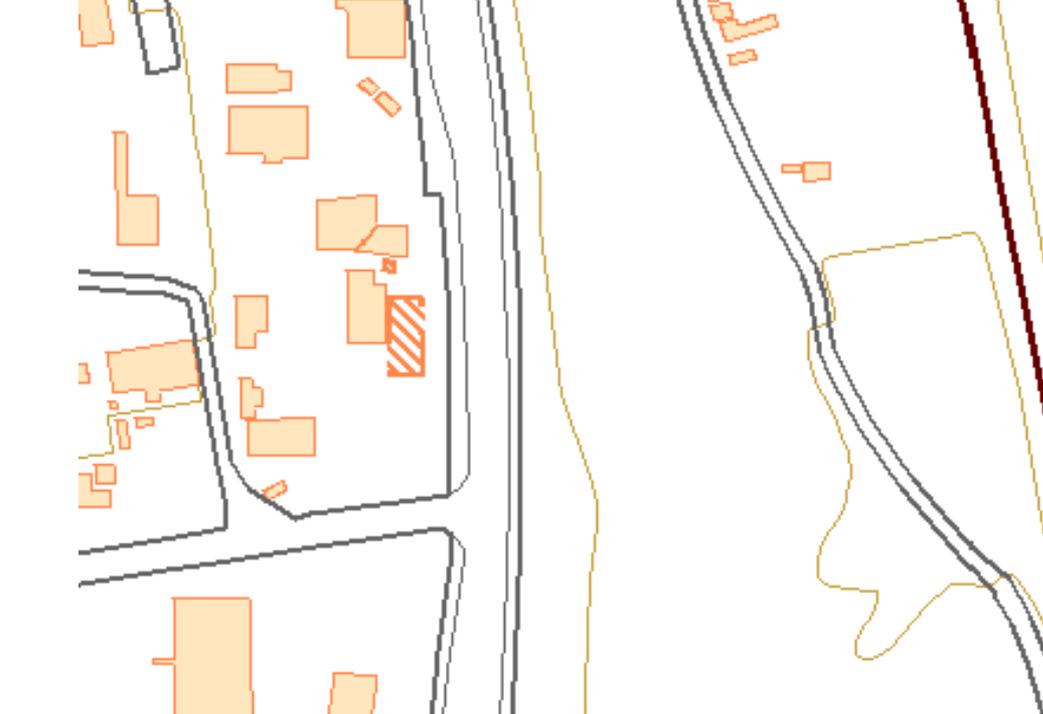
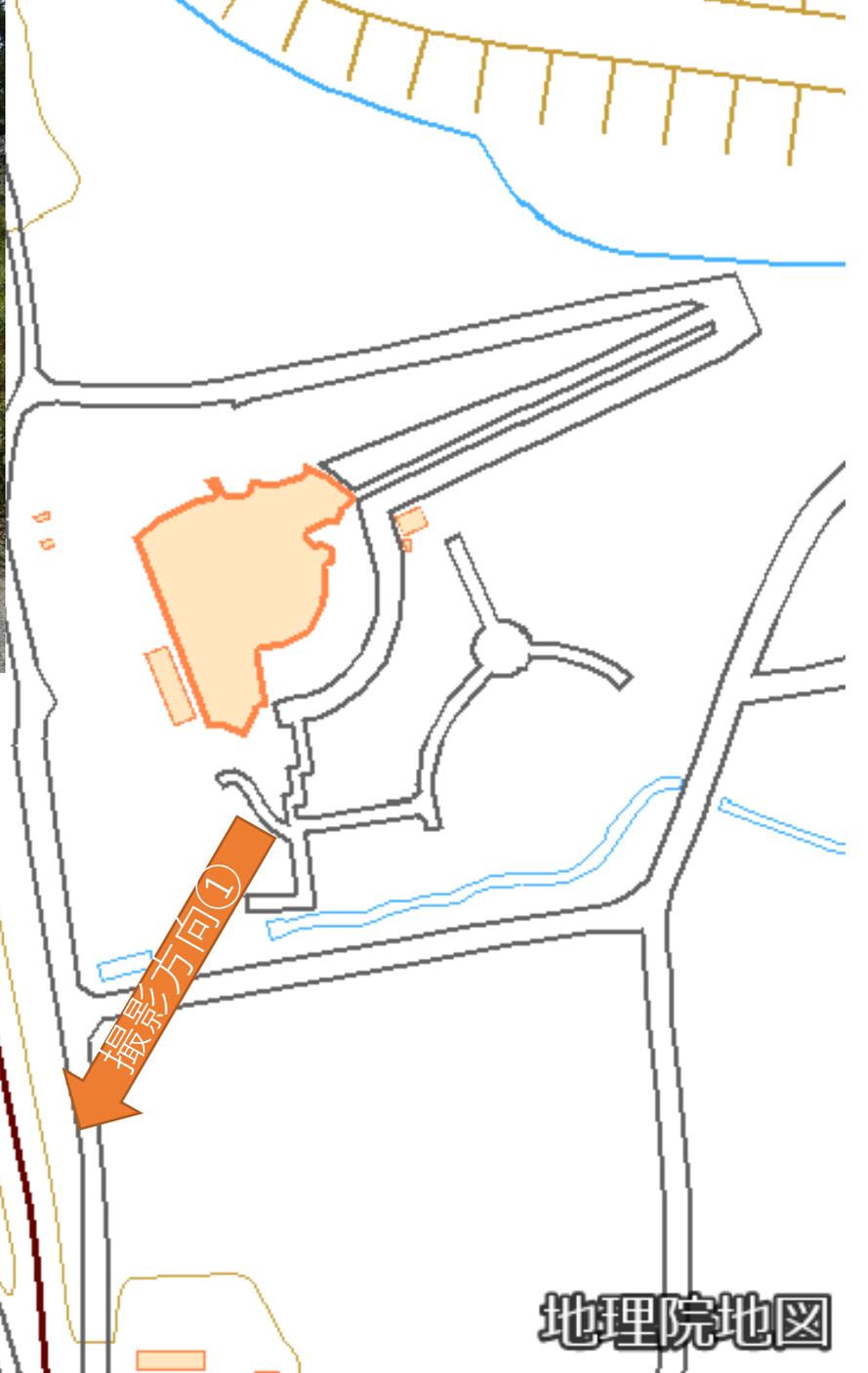
国道45号線と線路下の暗渠を通る沢が海と鯨の科学館前の親水公園を流れている。
国道45号線と線路の間は低くなっており，漁業用の作業小屋が地盤から約1.5m浸水している。



③山田町船越「鯨と海の科学館」西側 三陸鉄道軌道（線路）の被害



① 軌道（線路）の盛土被害



④宮古市山口地区山口川の越流痕跡

宮古市山口公民館北側の住宅街を流れる排水路のスリット（フィルター）にたまった塵芥（枯枝等）と越水痕。周囲の山地は花崗岩が多くみられるため、越水した土砂には花崗岩の礫と花崗岩が風化した“マサ土”が多く含まれていた。



⑤宮古市山口地区山口川の障害物

宮古市山口公民館北側の住宅街を流れる排水路のスリットにたまった枯枝等塵芥。今回の台風19号災害発生前の状況は未確認であるものの、土砂の堆積によりスリットの上流と下流で河床の高低差がより大きくなっている。

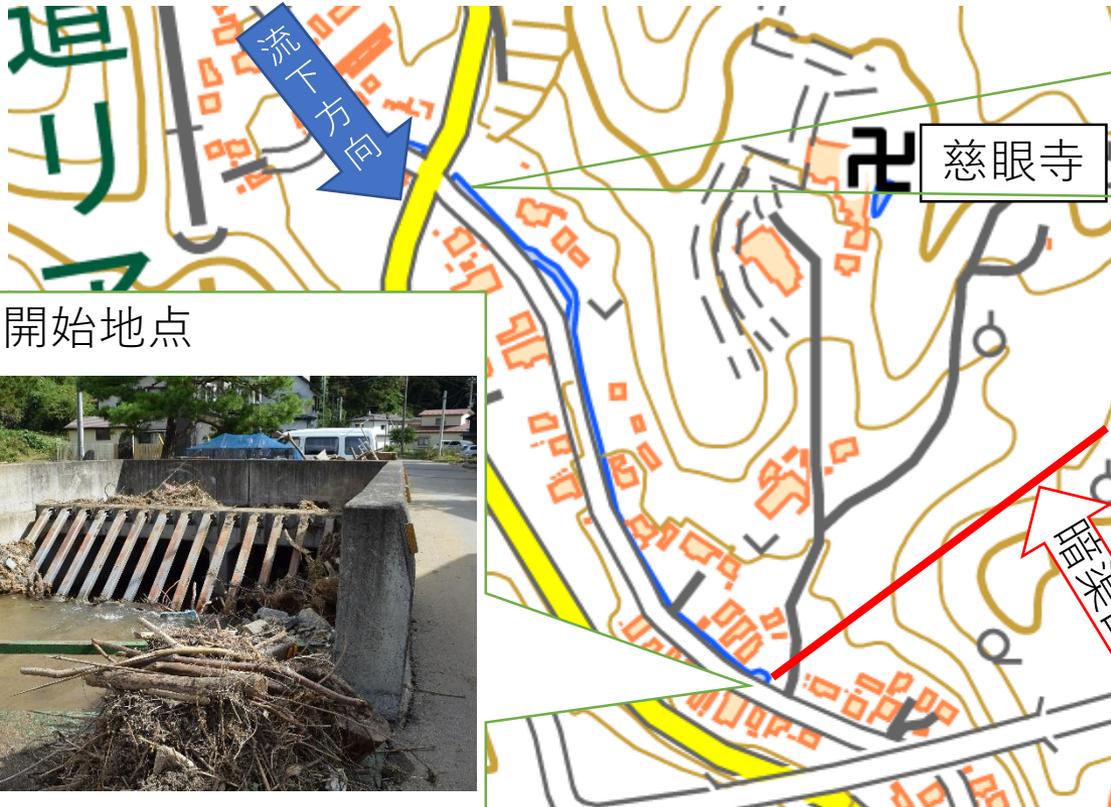


スリットによる塵芥等捕捉



慈眼寺

流下方向



暗渠の開始地点



強迫区間

山口(二)

山口

山口公民館

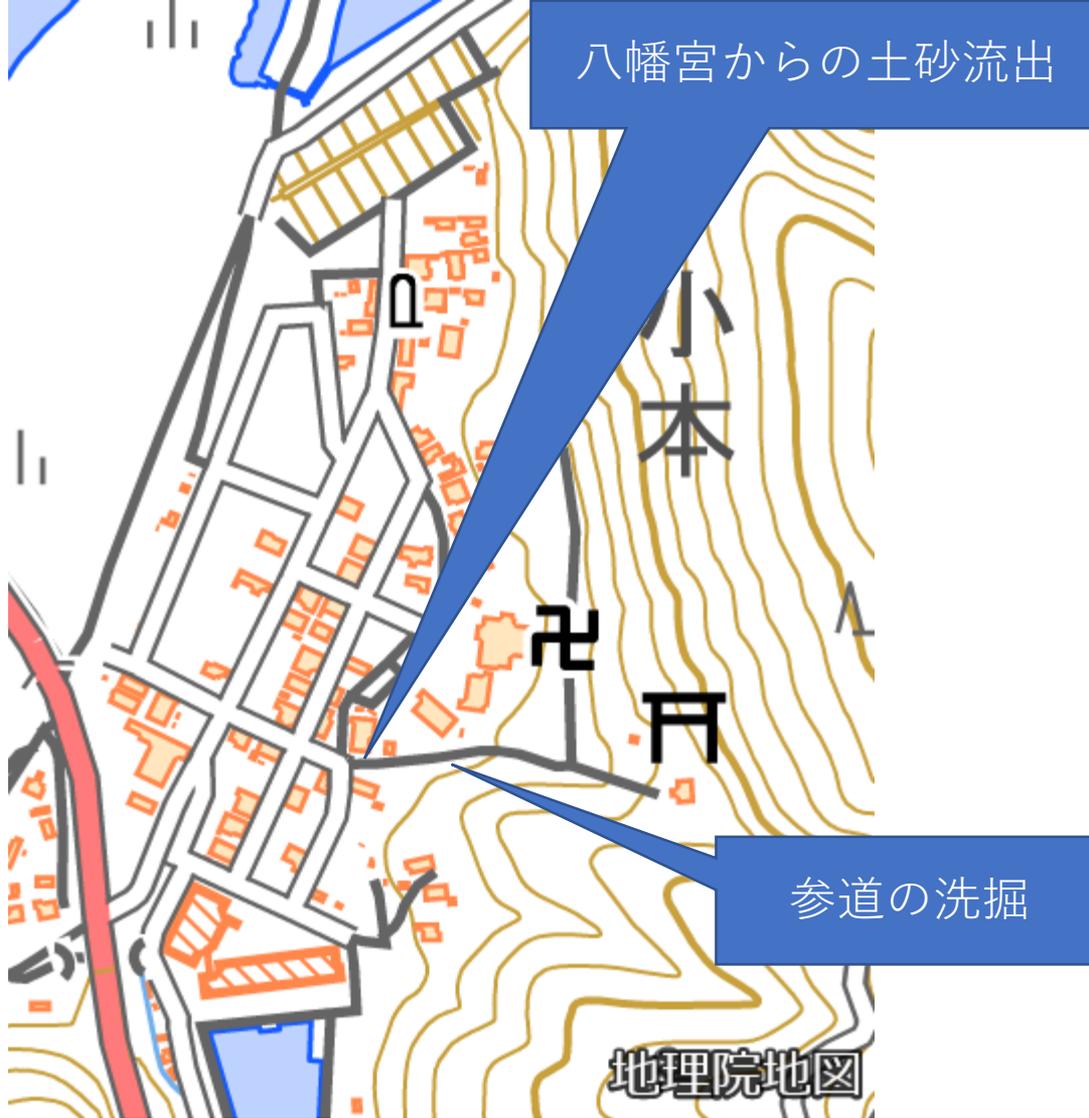
流下方向



地理院地図



暗渠開始場所のフィルターへの塵芥堆積により、上流部で越流した流れが道路冠水、家屋の浸水につながった。



小本地区の「浜の駅 おもと愛土館」周辺が浸水した。主な要因は山（集落西斜面）からの出水と見られる。
八幡宮の社横を流れる沢水が、参道を洗掘しており、参道入口の舗装された道路部分まで土砂が流出、残されている。